



Essay from Dentist

DHに届け！ 私の想い⑳

歯科衛生士にもっと 歯科保健指導を ～歯科保健指導は私の原点～

大町健介（歯科医師）

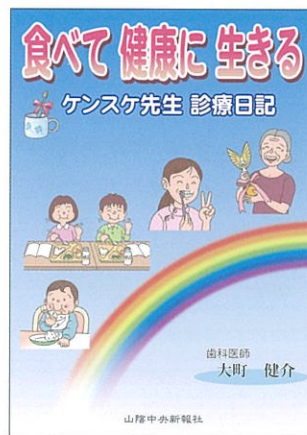
歯科保健指導は、歯科衛生士業務の華

「あなたは、どんな歯科衛生士になりたいですか？」。私は、実習に来る歯科衛生士養成校の学生に必ず質問します。私はそのとき、歯科保健指導の大切さと、医院内にとどまらず、教育現場や介護現場、地域住民対象の研修会などに積極的に参加して、活躍できるようになってほしいと話します。

私は大学卒業前（1985年）に、横浜歯科臨床座談会（代表：故・丸森賢二先生）を見学し、そこで患者さんがだんだん健康になっていく様子を、歯科衛生士がいきいきと症例報告することに感動しました。それから横浜歯科臨床座談会で勉強したいと思い、横浜市戸塚区開業の鈴木歯科医院（院長：鈴木祐司先生、管理栄養士：鈴木和子先生）に勤務させていただきました。そこで、歯科衛生士とともにブラッシング指導や食事指導を中心とした歯科保健指導を、医院内や幼稚園などの学校教育現場で取り組むことを教わりました。新人歯科医師の私は、歯科衛生士のように歯科保健指導をしようとしても、当時いっしょに働いていた歯科衛生士にはかなわず、まさに歯科保健指導は歯科衛生士業務の華と思いました。

歯科保健指導は、症例報告することで ますますおもしろく

鈴木歯科医院を退職後、地元の島根県松江市の父親の歯科医院に帰ると、横浜歯科臨床座談会と以前から交流のあった父親は、ブラッシング指導を積極的にしていました。横浜歯科臨床座談会のブラッシング指導は、やり方を教えるのではなく、患者さんが自ら問題発見をし、解決する体験学習です。それは当時めずらしく、歯科衛生士科の実習生が興味津々で見学する様子を見た私は、某歯科雑誌に「歯科衛生士にもっとブラッシング指導を～ブラッシング指導は私の原点～」という題で原稿を投稿しました。そしてその思いに共感してくれた当院の歯科衛生士が中心となって、歯科衛生士の研究会「歯科保健指導研究会」が発足しました。本研究会の呼びかけに自発的に集まった複数の歯科医院の歯科衛生士が、毎月それぞれの歯科保健指導の症例を発表しました。みんなで話し合うことで、歯科保健指導がますますおもしろくなっていくようでした。20年以上続いた研究会は、残念ながら休会となりましたが、その流れは現在も松江市歯科医師会事業として、他職種や一般市民対象の「口腔ケア研究会」につながっています。



地元の新聞での連載記事を編集し出版した本では、歯科衛生士が歯科保健指導により随所で活躍します

「100%磨き」に挑戦しよう

「院長！ 新人の歯肉がすごくよくなっています！ まだ、『100%磨き』の指導を始めたばかりなのですが」と、チーフが私にうれしそうに話してくれました。当院では、私が横浜で教わった「100%磨き」を、新人研修として取り入れています。「100%磨き」は、自分の口腔内を、歯ブラシのみで、歯垢染色液が残ることなく磨けるようになる体験学習です。簡単ではありませんが、当院に就職する歯科衛生士は、先輩の指導を何度も受けて、おおむね3カ月以内にこの「100%磨き」を達成します。この「100%磨き」挑戦の意義は、以下にあげるものです。

- ①歯ブラシの使い方の原則である「毛先磨き」を体得すること
- ②先輩歯科衛生士のきめ細かな指導を受けることで、患者さんの気持ちを考え、自分が指導するときの参考になること
- ③プラークの性質（砂糖摂取によりベタベタした落ちにくいプラークになるなど）を知ること、自分の食生活を見直し、患者さんの食事指導に役立つこと
- ④歯肉の細かな変化を読み取る練習になること
- ⑤「100%磨き」達成時の喜びが、歯科保健指導者としての自信につながる

「100%磨き」は、指導する側もされる側も多くの学びがあります。歯科衛生士同士でぜひ挑戦されることをお勧めします。

歯科訪問診療と介護度の改善は、 歯科衛生士がキーパーソン

高齢化が進む現代、当院でも通院できなくなった方への口腔機能の維持回復のために、歯科訪問診療に取り組んできました。

要介護者の食形態の低下は、介護度の悪化につながるため、食形態を介護食から普通食に近



当院の理念「私たちは、食べて健康に生きる喜びを分かち合うことで充実した人生を実現します」を掲げ、医院変革をしています

づける努力（リハビリテーション）が必要です。

そのためには、他職種連携のチームアプローチが必須ですが、医療と介護を「食べる」で緊密に結びつけることができるのは、歯科医療であり、そのキーパーソンは口腔ケア（口腔機能管理）の担い手である歯科衛生士だと思っています。当院では、10年ほど前から、歯科衛生士がキーパーソンとなって、摂食嚥下障害が改善し、胃ろうを外す症例もできました。

外に出ても、活躍できる歯科衛生士に

歯科保健指導は、歯科衛生士の活躍の場を広げます。当院を退職後、介護施設で歯科衛生士として勤務しているOBもいて、新たな展開とその活躍を期待しています。現在、歯科医院だけでなく、病院や介護施設などでの歯科衛生士による口腔ケアの需要が増えていて、これからはますます大切な職種になっていくと思われます。歯科衛生士の輝く未来のために、多くの可能性に果敢に挑戦してください。



大町健介／おおまちけんすけ

1986年 大阪歯科大学卒業
同年 鈴木歯科医院勤務
同年 横浜歯科臨床座談会 会員、
中沢顎関節研究所（所長：
中沢勝宏先生）にて研修
1990年～大町歯科医院勤務
現在 同 理事
医療法人大町歯科医院
〒690-0041
島根県松江市幸町 803-30